

令和6年度小平市立小平第一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全国平均と比べ0.6ポイント、東京都平均と比べ0.3ポイント高いがほぼ同じ状況である。特に情報の扱いに関する事項が93.8ポイントと高いが、言葉の特徴や使い方に関する事項は全国平均より1.5ポイント低い。

課題

言葉の特徴や使い方に関する事項の文章中の主語を見つかったり、適切な漢字に直したりすることのポイントが低いことが分かった。今後、文章中の主語に注目したり、既習の漢字は文章中で使ったりする指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

学んだ漢字を活用できるように、普段から文章を書くときには既習漢字を用いることを徹底する。国語に限らず、他の教科のノートやプリントなどでも活用できるよう指導していく。

国語で扱う文章では、主語、述語を見つける活動や言葉の決まりを調べたり、使ったりする活動を授業で取り入れていく。

【算数】

状況の分析

正答率は全国平均とほぼ同じであるが、東京都の平均正答率より0.9ポイント低い。特に数と計算、図形の事項で6～8ポイント低い。また、体積の計算や、わり算の計算の正答率が低く、学習内容の定着が不十分である。

課題

計算を工夫して答えを求めたり、わり算の商を求めたり、計算の方法やそれを使った思考を要する問題が苦手な児童が多いことがわかった。今後、計算の仕方の定着、活用の力を付けることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

東京ベーシックドリルや復習プリント等を活用し、学習内容の定着を図る。特に計算力の向上を目指し、既習の計算を繰り返し取り組むようにする。

習熟度別での授業の取り組みの中で、学びが深まるように、学習状況にあった基本・発展・統合的な課題を提示し、既習事項を活用する力を身に付けていく。また、理解が不十分な児童には補習の時間を充実させ、基礎、基本の徹底を図る。

【質問紙】

状況の分析

課題

学習者用端末を活用することについての質問では、授業中の使用や、家庭での使用について積極的に使っていると回答する児童が多かった。画像や動画が学習に有効であると回答している。

各教科の好き、嫌いに差が見られた。勉強は大切だと思っていながらも、前向きに取り組めていない児童がいる。

学習における学習者用端末の使用は、積極的にできているが、使い方のルールが守れず、依存傾向にある児童が見られる。学校・家庭での使用のルールの徹底が今後の課題である。

教科においては、好き嫌いが学習への取り組み方の差につながると考える。今後、より意欲的に取り組めるような授業改善が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

学習者用端末の使用については、学校、家庭でのルールの確認、徹底を行う。そのために、依存傾向にある児童には家庭と相談して持ち帰りしないということも必要になってくる。SNSの使い方も含め、依存やモラル等について指導していく。

教科指導については、児童が興味をもって取り組める課題及び教材を提示し、意欲的に学べる授業になるよう工夫していく。また、対話を多く取り入れ、意見を共有する機会を多く設け自己肯定感が高まる活動を取り入れていく。